

職業奉仕出前セミナー（2025-26年度）

UNITE FOR GOOD

よいことのために手を取り合おう



本日のセミナー内容

- ①自己紹介
- ②2025-26の職業奉仕部門**テーマ**
- ③職業奉仕（**総論**）
 - (1)職業奉仕を**学ぶ**とは何か
 - (2)歴史からみた職業奉仕の**中核**は何か
 - (3)ロータリー倫理訓（道德律）
 - (4)ロータリー通解
 - (5)決議23－34
 - (6)4つのテスト
- ④職業奉仕（**各論**）
- ⑤まとめ

①自己紹介

所属：熊本東南ロータリー

ロータリー歴：13年4カ月

職業分類：弁護士一般

ロータリーストーリー（ロータリーに入ってよかったこと等）

：国際大会に行って、**海外**に行けた。

：先輩の**生き様**を学べた。

：**ウクレレ**を弾く機会が増えて、**ボイトレ**を始めるきっかけになった。

②2025-26の職業奉仕部門テーマ

一昨年は**4つのテスト**の「真実かどうか」を掘り下げ、昨年は「みんなに公平か」を掘り下げるとともに「職業奉仕の**ウィーサーブ**（クラブでおこなう職業奉仕）」に取り組んできた。



個人的な癖で、どうしても小さい**ミクロ**の視点で物事をとらえる傾向がある。4つテストのひとつひとつに着目している部分はその傾向が特に現れている。部門長3年目になるので、もっと広い視点（**マクロ**の視点）で職業奉仕を捉え直してみたい。

②職業奉仕部門のテーマ

そこで、2025-26年度の職業奉仕のテーマを

「輝け 職業奉仕」

としました。

出前セミナーを中心に、職業奉仕をしっかりと捉え直して、**金看板**として輝かせたいという思いです。職業奉仕を総論と各論に分けて捉えてみます。

③職業奉仕（総論）

(1)職業奉仕を**学ぶ**とは何か

（何のために学ぶのか：学ぶ目的・視点）

木下光一パストガバナーから「2008－9年度職業奉仕セミナー（復刻再発行版）国際ロータリー第2680地区」が送られてきた。その内容は職業奉仕を「お金の儲け方を教える職業倫理運動」だと捉えながら、「奉仕の理想」を中心に全体像をしっかりとつかむ内容だった。



職業奉仕を学ぶことは「**経営学**」を**学ぶこと**であると明言していた。

そこで、このセミナーにおいて、いったんは職業奉仕とは「**経営学**」であると**仮定**して話を進めてみます。

③職業奉仕（総論）

(2)歴史からみた職業奉仕の**中核**は何か

○ **1905年2月23日** 4人の仲間で作られた。

シルベスター・シール（石炭商）/ポール・ハリス（弁護士）/ガスターバス・ロア（鉱山技師）/ハイラム・ショーレー（洋服屋）

※定款：①**会員の職業上の利益**の増大，②社交クラブに付随する**親睦**

○ **ドナルド・カーター**（弁理士）入会物語

「利己的なことに終始するクラブは将来性も入会の意義もないよ」

※定款追加：③**シカゴ市の利益**を推進し，市民の中に市に対する誇りと忠誠の精神を普及すること

○ 1911年全米ロータリークラブ連合会の第2回大会（ポートランド）

「Service, not self」が発表された。のちに「**Service, above self**」となる

「**He profits most who services best**」のシェルドンの原稿が読まれた。大会宣言の決議に採用された。

○ 1915年「**ロータリー倫理訓（道徳律）**」が決議された。**職業奉仕の理念の頂点**と言われている。

1913年に提唱されて2年で作成。

○ 1916年「**ロータリー通解**（ガイ・ガンディカー）」がまとめられ，ロータリー倫理訓が掲載された

○ 1923年セントルイス大会での**決議23-34**

○ 1930年代ハーバードテナーが**4つのテスト**を用いて経営再建

③職業奉仕（総論）

(2)歴史からみた職業奉仕の中核は何か

「The ideal of service（奉仕の理想）」

過去の歴史をみても「奉仕の理想」が中核概念として提唱されてきている。そこで、「奉仕の理想」を**理解**することが大切である。



「ロータリー倫理訓（道德律）」「ロータリー通解」「決議23-34」
「4つのテスト」を**紐解く**ことで理解することになる。

③職業奉仕（総論）

(3)ロータリー倫理訓（道德律）

1915年サンフランシスコ大会で採択，その後1922年にR I 細則が制定「15条（後の16条）R Iはロータリーの倫理訓（道德律）を採択する」，手続要覧に掲載。

- ※**職業奉仕の理念の頂点**と言われていた



1951年手続要覧への掲載を中止，1980年の規定審議会でR I 細則16条削除。

- ※道德性が高い，**宗教性が高い**，長すぎるため4つのテストでいいではないか。



1989年「**職業宣言**」がロータリーの思想を確認して，採択された。

2019年1月「**ロータリアンの行動規範**」が理事会決定された。

③職業奉仕（総論）

○前文

この職業倫理基準は、我々に共通な人間性を求める心をその骨子とするものである。自分の取引、自分の野心及び自分をめぐる諸関係は、常に、社会の一員としての自分の最高の義務を考慮に入れてのことでなければならない。職業生活の全ての地位において、自分の当面する全ての責任において、自分の主たる思考は、かかる責任を果たし、且つかかる義務を履行して、かくして、その各々の任務を完了したとき、自分は、人間の理想と業績とを、当初よりも幾分向上させなければならない。この見地から、本委員会の議決によれば、国際ロータリーの職業倫理訓の基本は、次に掲げる原則となるものである。



私たちは、人間の理想と業績を向上させる必要がある

③職業奉仕（総論）

1 自分の職業に価値を認め、これにより、自分は社会に奉仕する好個（こうこ）の機会（ちょうどよい機会）を与えられたものと考えべきこと。



※自分の職業を天職であると考えて、社会に奉仕する良い機会を与えられたのだと考えべきである

③職業奉仕（総論）

2 自分の身を修め、自分の実力を涵養（かんよう：無理をしないでゆっくりと養うこと）し、自分の奉仕を広めるべきこと、ならびに、それを通じて「奉仕に徹する者に最大の利益あり」とするロータリーの基本原則を実践すべきこと



自分を磨いて、奉仕に徹するべき

③職業奉仕（総論）

3 自分は企業経営者であり、したがって成功の野心を抱いていることを自覚すべきこと。だが、自分は道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道徳に基づかざる成功は、これを欲するものでないことを自覚すべきこと



野心を自覚しつつも、
正義と道徳に基づく成功を求める

③職業奉仕（総論）

4 自分の商品，自分の労働，自分のアイデアを金銭と交換することは，全当事者がこれによって利益を受ける限りにおいてのみ，適法にして道德にかなうものであるとの信念を持つべきこと



全当事者が利益を受けるようにすべき

※売り手よし，買い手よし，世間よし

③職業奉仕（総論）

5 自分の従事する職業の水準を向上させるため最大の努力をほらい、かくして、自分の業務の処理の仕方は賢明であって、利益を産み、この実例にならば幸福の道が開けることを、同業の者に知らしむべきこと



職業の水準を向上させて利益を産み、同業の模範となること

③職業奉仕（総論）

6 同業者と同等ないしそれに優る完全なサービスを尽くすような方法をもって、企業経営を行うべきこと。また、もし完全なサービスか否かに疑念を生ずる場合には、当該債務上妥当な範囲を超えてまでもサービスを行うべきこと



アフターサービスは利益を度外視してでもおこなうべし

③職業奉仕（総論）

7 専門職業にたずさわる者又は企業経営者の最大の資産の一つは、その友人であることを理解すべきこと。また友情に基づいて手に入れたものこそ、まさに倫理的かつ正当なものであることを理解すべきこと



最大の資産は友人である

友情によって手に入れたものは倫理的かつ正当である

③職業奉仕（総論）

8 真の友人は、互いに何も要求するものではなく、利益のためにみだりに友人の信用を利用することは、ロータリー®の精神と相容れないばかりか、その倫理訓にもとるものと考えべきこと



利益のために友人の信用を利用しない

③職業奉仕（総論）

9 社会秩序の立場から他人が絶対に認めないような不正な方法によって機会を利用し、これによって得た人の成功を、正当または倫理的なものと考えてはならないこと。また、物質的成功を得るがため、人が倫理的に問題ありとしてしりぞけるような機会に乗ずるがごときをしてはならないこと。



不正な方法による成功は正当でないし倫理的なものでない

③職業奉仕（総論）

10 自分は、一般人に対して義務を負う以上に、同僚であるロータリアンに対して義務を追うものではない。けだし、ロータリーの真髄は、競争ではなくして協力であるからであり、また党派心は、ロータリーのごとき制度においてあってはならず、かつ人権は、ロータリーの内部に限られるものではなく、その範囲とその重要性とにおいて、人類そのものの存在と同程度のものであることを、ロータリアンは主張するものだからであり、かつまた、ロータリーはこの高邁（こうまい：抜きん出ている）な理想に向って、すべての制度に属するすべての者を教化するために存在するものである。



ロータリーの真髄は協力である（競争ではない）

党派心（一つの考えに偏って組すること、派閥）はいらぬ

人権尊重の理想を世の中に広める使命がある

③ 職業奉仕（総論）

11 最後に、「すべての人にしてもらいたいと欲することを人に対して行うべし」という黄金律の普遍性を信じ、われわれは、地上の天然資源がすべての者に均等な機会として与えられてこそ、人類社会は最良の状態になるべきことを、主張してやまないものである。



自分がしてもらいたいことを人に対して行う

天然資源の均等な配分

③職業奉仕（総論）

○要旨

この倫理訓の目的は、個人の完成をその基礎とし、国家の永続はただ自我を温存するためなりとの立場をとるギリシヤ的倫理観ではなくして、この倫理訓の根本前提は愛なのである。すなわち、ロータリアンが正しいことをなすのは、単に自我を温存させるためだけではないのであって、他人を滅すよりはむしろ他人に滅されんことを選ぶ、という立場をとるからである。



根本は愛である

③ 職業奉仕（総論）

【職業宣言】

奉仕の機会としてあらゆる職業において、高度の道徳的水準を推進し、その価値を認め、職業を社会の二一スに役立てるため、1989年規程審議会は次の職業宣言が採択した。

専業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

- 1 **職業は奉仕の一つの機会なり**と心に銘せよ。
- 2 **職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳規準**に対し、名実ともに**忠実**であれ。
- 3 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
- 4 雇主、**従業員**、同僚、同業者、**顧客**、公衆、その他事業または専門職務上関係をもつすべての人々に対し、ひとしく**公正**なるべし。
- 5 社会に有用な全ての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- 6 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
- 7 **広告**に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うにあたっては、**正直**専一なるべし。
- 8 事業又は専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

③職業奉仕（総論）

【ロータリアンの行動規範】（2019年1月 RI理事会決定119号）

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1 個人として、また事業において、**高潔さと高い倫理基準**を持って行動する
- 2 取引のすべてにおいて**公正**に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びととの**生活の質を高める**。
- 4 ロータリーやほかのロータリアンの**評判**を落とすような言動は避ける。
- 5 ロータリーの会合、行事、および活動において**ハラスメントのない環境**を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないよう確認する。

③職業奉仕（総論）

(4) 「ロータリー通解」

ガイ・ガンディカーが当時の理論および教育担当委員会の委員長としてまとめたもの

「ロータリアン」は、ロータリーの例会で、自らを高め、そして自らの職業分野に戻ってロータリーの理想を広めていく。それが真のロータリアンである。出席率の高い会員ほど、ロータリークラブの大きな財産である。



真のロータリアンは、例会に出席し、例会で学び、自分を高めて、ロータリーの理想を広める人である

③職業奉仕（総論）

(5) 決議 23-34

個人としての奉仕理念と**団体**としての奉仕活動の衝突を解決し、ロータリー分裂の危機を回避したものとされている。

※**理論派**（奉仕の心を形成する理論こそが大切）と、**実践派**（奉仕を実践することがロータリー運動の真髄）の対立とも言われている。

※**職業奉仕**と**社会奉仕**の衝突とも言われている。

※個人的には、**アイサーブ**と**ウィーサーブ**の衝突にも思える。

③職業奉仕（総論）

(5) 決議 23-34

1 本来、ロータリーとは、自己のために益（えき）せんとする願望と他人に奉仕せんとする義務意識との間に絶えず生ずる葛藤を調和せしめんとする人生の哲学のことをいう。この哲学こそ「自己研鑽の奉仕」 Service above selfであり、「奉仕に徹する者に最大の利益あり」 He profits most who services bestという実践倫理原則をその根底におくものなのである。



ロータリーとは、自己の利益と他人への奉仕を調和する人生哲学

②職業奉仕（総論）

(5) 決議23-34

ロータリークラブの奉仕の実施活動は、ロータリークラブ会員に奉仕の世界における訓練を行うことを目的として企画された教室の実験例にしか過ぎないものとして考えられなければならないものであるからして、すべてのロータリアンの個人奉仕の努力を逐一記録するクラブ活動の方が、一般的に言えば、クラブの団体行動のみを要求するクラブ活動よりも、ロータリー精神にそうものである。



クラブ奉仕は会員の訓練を目的として企画された実験例である

②職業奉仕（総論）

(6) 4つのテスト

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

④職業奉仕（各論）

(1) 【取引関係】

誇大広告禁止の原則～4つのテスト, ロータリー倫理訓第3条
職業宣言7条

同業者**誹謗禁止**の原則～ロータリー倫理訓第3条第9条

適正価格遵守の原則～便乗値上げをしない, ロータリー倫理訓第4条

アフターサービスの原則～ロータリー倫理訓第6条

④職業奉仕（各論）

(2) 【同業組合の関係】

自由競争の中での同業**共存共栄**

～決議23-34「1」、ロータリー倫理訓第5条

↓

アイデアの**共同開発**

アイデアの**交換**

ノウハウの**公開**

職業倫理の提唱

※**武器対等の原則**の中で自由競争をおこなう

④職業奉仕（各論）

(3) 【下請関係】

利益の**適正分配**～ロータリー倫理訓第4条第11条

賄賂をおくらない～ロータリー倫理訓第9条, 職業宣言2条

④ 職業奉仕（各論）

(4) 【企業内管理関係】

社長も従業員も役割分担という**横の関係**で捉える～決議23-34「1」

経理の**公開**～ロータリー倫理訓第5条

適正賃金～ロータリー倫理訓第4条第11条

利益の**公正分配**～ロータリー倫理訓第4条第11条，職業宣言4条

④まとめ

職業奉仕を学ぶとは「**経営を学ぶ**」ことと同じである。この意味は何か。

経営コンサルに関しては、コア・コンピタンス理論、SWOT分析、PPM分析等のツールがあります。ただ、ドラッカーは経営者の「**真摯さ（インテグリティ）**はごまかせない」と述べています。さまざまなツールで経営方針を探求しても、経営者の**真摯さ**が最も大切であり、それはごまかすことができないものだと言っています。

職業奉仕は、まさにこの「**真摯さ**」に関する話だと個人的には考えています。

ざっくりまとめると、本日は以下のような内容を話してきました。

①ロータリアンの使命は**自己を磨く**ことであり、磨いて**他人に奉仕**することである。そしてそれは結果的に**自己の商売を栄えさせる**ことになる。（利益と奉仕の調和）

②ロータリーの**例会**は**人生の道場**であり、例会における切磋琢磨が必要であり重要である。（例会で学ぶことの大切さ）

④まとめ

先日の部門別協議会で前田パストガバナーはみんなに**宿題**を出しました。

Q：あなたにとっての職業奉仕を**一言**で言えるようにしてみてください。

A：私（古田哲朗）にとって、職業奉仕とは

「職業人としての真摯さ（インテグリティ）を磨き続けること」

です。

皆さんにとっての**職業奉仕**は何でしょうか？

例：自分が何を売っているのかを考えること等

是非、**例会**で**自分**で勉強してみて、答えを探してみてください。

ロータリアンが職業奉仕で各自の「**真摯さ**」を磨き合い、職業奉仕がロータリーの**金看板**として輝きを増すことを望みながら、このセミナーを終わります。

⑤おまけ

○木下光一パストガバナーのひとこと

職業奉仕は**実践**することに意義がある



理論だけでなく、実践することまでやりとげるのが大切

私の実践例：利益の公平な分配を実施して**期末賞与を導入**

不正な補助金受給の誘いを**きっぱり断る**

事業と無関係な領収証を**経費**にしない

○藤田ガバナーの提案

□ローターアクトにも職業奉仕を学ぶ機会が必要